

家庭教育力の強化を図る

家庭・学校・地域の連携を深めるPTA活動

豊明市立中央小学校PTA

1 はじめに

本校は、戦国時代の転機ともなった「桶狭間の戦い」で知られる豊明市にある。豊明市は、愛知県のほぼ中央部、尾張地方南東端に位置し、かつて鎌倉と京を結んだ古代東海道や鎌倉街道、及び旧東海道が市域を貫いている。校区は市中央部に位置し、行政の要である豊明市役所や、交通の要所となる伊勢湾岸自動車道豊明インターチェンジ、「日本一大きな無人駅」として知られる名



【中央小学校 体育館・管理棟】

鉄名古屋本線豊明駅といった利便性の良い諸施設を擁している一方、校区の多くを閑静な住宅街が占めている。このような歴史ある豊明（吉池・千賀控家）の地に、明治6年双峰義校として発足した本校は、本年創立150周年を迎えた。令和5年10月現在、児童数676名、学級数21（特別支援学級4）の、市内で最も児童数の多い小学校である。校訓「よく学び 心豊かに たくましく」のもと、知・徳・体の調和のとれた、心豊かな児童の育成を目指している。また、全職員が「チーム中央小学校」として協働し、探究心と情熱をもち、知恵と工夫を凝らした教育活動を実践することを経営方針に掲げ、教育活動を推進している。

PTAによる諸活動に加え、地域にお住まいの登下校見守りボランティアの方々による見守り活動や、有志保護者を中心に結成された「おやじの会」による環境整備活動や行事運営補助、読み聞かせボランティアサークル「らぶつくす」による読み聞かせ活動等、児童は地域の様々な方々に温かく見守られながら日々の学校生活を送っている。

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

本校PTAは、以前から特別登校指導や運動会運営補助、給食試食会、芸術鑑賞会保護者参観等の活動を続けてきた。しかしながら、共働き家庭の増加や生活スタイルの変容、価値観の多様化などにより、PTA活動への参加に負担を感じるという意見や、各地区委員や役員の選出に大変苦労するといった声が聞かれるようになり、活動の見直しを迫られて

いる。コロナ禍を経た新しい生活様式や学校行事の実施方法に合わせた、より有意義なPTA活動の在り方を模索中である。

そこで、保護者が大きな負担を感じることなく、かつ児童にとって意義のある活動となるようにPTA活動を精選するとともに、有志保護者により組織されている会についても、活動の継続を念頭に置いて負担軽減についての実践を考えた。

(2) PTA等の組織

PTA委員29名は、会長・副会長(2名)・会計・各種委員会理事(6名)・書記(事務局)・顧問(校長)からなる「役員」と各地区より選出の「地区委員」で構成されている。理事と地区委員の合計23名は、校外補導委員会・厚生委員会・文化委員会のいずれかの委員会に所属している。この他に在校生保護者に加えてOBも多数参加している「おやじの会」や、保護者有志による読み聞かせボランティア「らぶつくす」、各地域の登下校時見守り隊があり、各々熱心に活動している。

3 実践活動の概要

(1) PTA特別登校指導

本校区では、たかさんの見守りボランティアの方々が登下校時に見守り活動に参加され、児童の交通安全の一助となっているが、PTAでも定期的に(月に一度程度)登校指導(特別登校指導)を行っている。これは、各地区委員が登校時に児童に付き添って登校し、各分団の集合状況や登校の様子、通学路の危険箇所の点検等を実施するものである。その指導の結果については、従来の用紙記入から、メール配信システムのアンケート機能を利用したフォーム入力に変更した。付き添っていたいただいた保護者は、空き時間を利用しての入力・送信が可能となり、大変便利であると好評であった。集計についても以前より圧倒的に効率よくできるようになり、事務局の業務改善に役立っている。この報告の結果については、職員やPTA委員会でも共有し、迅速な指導に役立てている。



【PTA特別登校指導の様子】



【見守り隊による見守り活動の様子】

(2) P T A給食試食会

6年生が修学旅行に出かけている間、6年生の空き教室を利用して、P T A厚生委員会による「給食試食会」を実施している。コロナ禍においては、P T A厚生委員会所属の委員のみを参加対象としていたが、昨年度より、一般会員の参加を復活させ、昨年度と今年度はそれぞれ40名程の保護者の参加を集めた。第一部の



【給食試食会・栄養教諭による講話】

栄養教諭による講話と第二部の試食会は、共に大盛況であった。P T A厚生委員は、当日の受付や会の進行、挨拶などの打合せを事前の委員会とメール配信で行い、準備までの負担を極力削減した。厚生委員向けの事後アンケートでも、会の事前準備や進行について好意的な意見が多数寄せられた。

(3) おやじの会

本校在籍児童の男性保護者（おやじ）を中心に、「おやじの会」が組織されている。主な活動としては、運動会での保護者会場誘導や5年野外活動での海遊び運営補助、校内除草作業や落ち葉拾い等学校環境整備活動、始業式終業式など式日登校時の挨拶運動等が主な活動となっている。行事に参加することで、我が子の学校での活動の様子を直に見ることができる一方、家庭での普段の父親と違った、みんなのために頑張る“おやじ”の姿を見せることが、親子理解への一助となっている。結果、父子の会話が以前よりも増えたとの感想が寄せられている。今年度、会員の負担感軽減のため、従来 of 活動内容を精選し、より気軽に参加できるように工夫をしたところ、新規入会希望者数も伸びているとのことであった。



【おやじの会（運動会にて）】

(4) 読み聞かせボランティアサークル「らぶつくす」

本校P T A会員及び卒業生の保護者により、読み聞かせのボランティアサークルが組織されている。低学年児童を対象に、音楽室を会場として毎週木曜日の大放課に絵本の読み聞かせ活動を行っている。コロナ禍により活動休止を余儀なくされたが、昨年度から感染状況を考慮しつつ、1教室のみ（音楽室）での読み聞かせ活動を再開させた。七夕やクリスマスシーズンには、1～3年生のクラスに直接出張して各クラスでの読

み聞かせ活動を実施したり、卒業期前に体育館で全校読み聞かせを実施したりして、児童との心の交流を続けている。時間に余裕のある会員ができる範囲で活動を行っており、今年度も新規加入希望者を迎えて継続的に活動をしている。



【読み聞かせの様子】

(5) 感謝の会

毎年2月に児童会が中心となって、地域のお世話になった方に感謝の気持ちを伝える「感謝の会」を行っている。コロナ禍での休止を挟んだが、令和4年度より再開した。

昨年度は、6年生だけで実施し、給食センター職員や交通指導員、陸上部外部コーチ、見守り隊、おやじの会の方など地域で特にお世話になっている方々をお招きした。昨年度は特に、茶話会形式で一人お一人とじっくり会話を交わす取組を行い、地域の方々が中央小の児童のことをいかに大切に思ってくださっているか、児童が実感できる大変貴重な時間となった。



【感謝の会で会話をする様子】

今年度は負担が大きくなるに程度に従来よりも規模を縮小して、全校で開催する予定である。

4 おわりに

P T Aや地域ボランティアによる学校支援活動を持続可能なものにするためには、会員に過度な負担がかからないようにすることが肝要である。とりわけP T Aについては、今回の実践で、できる限り活動を精選し負担感の縮減に努めた。しかしながら、次年度役員や地区委員の選出においては、毎年地区委員に多大なる負担を強いている。引き続き、P T A活動の意義について丁寧な説明を行い、理解を得る努力を続ける一方、P T A役員・委員選定方法について負担軽減策を練ることが、P T A活動持続の鍵であると考え。役員等の選出については、本校では、地区ごとに選考方法が異なる（子ども会役員の兼ね合い等）ため、一律で選考方法を変更することが困難であるが、立候補を募り委員を引き受けていただいている他校の例も参考にしながら、保護者の意識調査を実施したい。また、おやじの会等既存の組織についても、学校運営協議会を通じて地域人材を取り入れるなどしながら会員の負担軽減を図りつつ、教員の働き方改革も念頭に置いて無理なく活動が続けられるような工夫も模索していきたい。